

早 稲 田 大 学

産 業 経 営 研 究 所

所 報

N o . 6 4

Research Institute of Business Administration

Waseda University

2 0 2 4 年度

目 次

1. 研究分科会一覧	1
2. 事業活動	6
3. 役職者・運営委員・助手	19
4. 商学学院・産業経営研究所構成図	20
5. 『産業経営』投稿規定・執筆要領	22
6. 第 29 回産研アカデミック・フォーラムフライヤー	

1. 研究分科会

1) 研究分科会一覧

2024 年度設置分科会

※印は分科会主任者、△印は2分科会以上参加者

☆印は兼任研究所員、◎印は招聘研究員、○印は研究協力員

整理番号	テーマ・構成員	
2024-01	テーマ	広告とマーケティングにおける価値創造への多面的アプローチ Multifaceted Approaches to Value Creation in Advertising and Marketing
	☆	※嶋村 和恵 石井 裕明 恩藏 直人 須永 努 フランクビョーン 守口 剛 劉 玉婷
	◎	秋本 昌士 石崎 徹 石田 大典 大平 進 河股 久司 武谷 慧悟 田部 溪哉 芳賀 康浩 朴 正洙 広瀬 盛一 峯尾 圭 八ッ橋治郎
	○	鞠 佳穎 時 文軒 芳賀 悠基 速水 健吾
2024-02	テーマ	習近平第3期体制下の「一帯一路」構想における異文化接触 Cross-Cultural Conflict in the coming 3rd term of Xi Jinping's “One Belt, One Road” project
	☆	※小川 利康 荒井 訓 尹 景春 クラウド マヌエル P 陳 曦 中村みどり パルヴェーレスコMM 松川 雄哉 森本 栄晴 矢内 義顯 柳橋 大輔 △李 洪茂 ロペスハラ サンティアゴ
	◎	△井上 葉子 △今井 利絵 宇野 和夫 川邊 信雄 白石 徹 △鈴木 岩行 △竹之内玲子 田代 祐基 白 春岩 樫山 健介 原口 厚 李 雪
2024-03	テーマ	技術革新、自然・社会環境の変化が保険ビジネス及び保険制度に与える影響と課題 How the innovation of technology and the change of the natural and social environment affect the business and system of insurance?
	☆	※中出 哲 任 素英 邵 傑 田口 尚志 星野 明雄 △李 洪茂
	◎	恩藏 三穂 佐々木博之 △鈴木 岩行 土田 武史 安井 敏晃
	○	草野 哲史

2024-08	テーマ	管理会計におけるリスク分担機能の研究 The study on risk sharing functionalities of managerial accounting		
	☆	※鈴木 孝則 葛山 康典 清水 信匡 目時 壮浩	薄井 彰 △金子 良太 ダニエル ドーラン	大鹿 智基 清水 孝 長谷川恵一
	◎	秋山 盛 伊藤 嘉博 海老原 崇 大塚 宗春 神山 直規 小林 啓孝 須藤 時男 成岡 浩一 河 榮徳 福島 隆 町田 遼太 渡邊 直人	阿部 圭司 稲葉 喜子 大川内隆朗 岡田慎太郎 河路 武志 齋藤 正章 高橋 克幸 西澤 脩 花村 信也 堀 好一 松田 修一	石塚 博司 内野 里美 庵谷 治男 奥本 英樹 古賀健太郎 佐藤 紘光 辻 正雄 野坂 和夫 潘 健民 前野 譲二 矢内 一利
	○	大塚慎太郎 佐々木貴司	大西 智之 佐俣 翔平	小澤 圭都
2024-09	テーマ	国際ビジネス戦略の新展開：理論と実証分析の最前線 New Developments of International Business Strategies: Frontiers of Theory and Empirical Studies		
	☆	※横田 一彦 △エドマン ジェスパール カール ヨーラン 谷口 真美	池上 重輔 長谷川信次	△市田 敏啓
	◎	△井上 葉子 江夏 健一 佐藤 敦子 白木 三秀 △竹之内玲子 三輪 祥宏	今井 雅和 桑名 義晴 佐藤 幸志 高井 透 長谷川 礼 山本 崇雄	△今井 利絵 小田部正明 清水さゆり 竹之内秀行 林 正
	○	劉 瑾宸		

2024-10	テーマ	グローバルイゼーションと財務会計研究 Globalization and Financial Accounting Research		
	☆	※八重倉 孝 奥村 雅史 菅野 浩勢 鈴木 友康 林 敬子 山内 暁	秋葉 賢一 △金子 良太 金 奕群 関根 愛子 伏見 俊行 吉野 真治	大塚 忠義 川村 義則 スズキトモ 野村 俊一 持永 勇一
	◎	青山 慶二 池村 恵一 井出健二郎 尾畑 裕 金子 善行 高橋 秀至 遠谷 貴裕 中嶋 隆一 根岸 亮平 原 誠 松本 敏史 山下 奨 渡辺 剛	安 珠希 石内 孔治 海老原 諭 片山 覺 栗城 綾子 千代田邦夫 鳥羽 至英 中田 有祐 羽根 佳祐 藤木 潤司 藻利 衣恵 尹 志煌	飯塚 雄基 井手 健二 閻 肅 加藤 大吾 栗原 克文 辻山 栄子 中井 誠司 長束 航 濱田 崇嘉 藤田 晶子 山崎 尚 若林 利明
	○	畢 天維		
2024-11	テーマ	イノベーション創出のメカニズムについてのマルチレベル分析 Investigating the Mechanisms of Innovation: A Multilevel Perspective		
	☆	※△山野井順一 △エドマン ジェスパー 坂野 友昭 藤田 誠 村瀬 俊朗	有村 俊秀 鬼頭 朋見 清水 洋 △マレン ジョエル 梁取 美夫	井上 達彦 キム テソク 谷本 寛治 三橋 平
	◎	足代 訓史 石毛 昭範 大月 博司 カブツルギエヴィッチアガタレサ 黄 雅雯 潜道 文子 日野 健太 万 涛	安部由起子 伊藤 泰生 大沼 沙樹 川崎 千晶 厚東 偉介 鳥田 友起 古田 駿輔 山口 善昭	△井口 衡 宇田 理 小沢 和彦 金 倫廷 小林 俊治 花岡 幹明 古田 成志
	○	オウ ヘキサン 坂井 貴之 鈴木 宏治 趙 夢茹 鄭 雅方 村井 健彦	高坂 啓介 鐘 粵 張 涵 陳 琦 松井 希望 矢島 猶雅	近藤 祐大 焦 雅 張 森 陳 天耘 マハダビネジャード マルヤム 吉澤 昭人

2024-12	テーマ	社会経済システムの局所化に関する経済学理論とその応用 Theoretical and Empirical Research on Polarization of Socio-Economic Systems		
	☆	※高瀬 浩一 笠島 洋一 加納 和子 坂野 慎哉 豊泉 洋 富 蓉	△市田 敏啓 片岡 孝夫 川中大士朗 鈴木 彩子 朴 相俊 毛利 裕昭	伊藤 秀史 片山 東 黒田 翔 大門 毅 原 和弘 横山 将義
	◎	相場 大樹 △井口 衡 金 鑫 佐々木宏夫 高橋 達 成川 康男	青山 知仁 菊地 雄太 葛目 知秀 清水 弘幸 橘 洋介 横溝えりか	赤星 立 木口 武博 齋藤 卓爾 杉野 誠 友原 章典
2024-13	テーマ	生産性の選択をめぐる労使関係と経済史 The Choice of Production Organizations: Industrial Relations and Economic History		
	☆	※花井 俊介 矢後 和彦	池尾 愛子	小倉 一哉
	◎	井上 雄介 安元 稔	小杉 亮介 柳沢 遊	高橋 弘幸
	○	ホ ジュンカイ		
2024-14	テーマ	東京商工リサーチ社のデータベースを使用した日本の中小企業の分析 Empirical analysis of Japanese SMEs using the Tokyo Shoko Research database		
	☆	※△久保 克行 △マレン ジョエル ベーカー	上田 晃三 宮川 大介	及川 浩希 △山野井順一
	◎	荒田 禎之 小野 有人 滝澤 美帆	植杉威一郎 川窪 悦章 細野 薫	内田 浩史 ZACCARIA, Andrea 布袋 正樹
	○	島村勇太朗		

2. 事業活動

1) 運営

(1) 運営委員会

第1回 2024年4月10日(水)

- 1) 2024年9月採用助手選考結果の件
- 2) 2024年度研究員人事の件
- 3) 2024年度事業計画書・予算書(案)の件
- 4) 2024年度分科会研究費配分(案)の件
- 5) 共同研究の件
- 6) その他

第2回 2024年5月22日(水)

- 1) 研究員人事の件
- 2) 共同研究の件
- 3) JSPS 学術知共創プログラム採択に伴う再委託契約の件
- 4) 受託研修の件の件
- 5) 国際共同研究集会産研共催の件
- 6) 2023年度事業実績報告書・決算書(案)の件
- 7) 長候補者選挙・運営委員選挙の件
- 8) その他

第3回 2024年6月26日(水)

- 1) 研究員人事の件
- 2) 共同研究の件
- 3) 助手海外出張の件
- 4) 産研ジャーナルランク廃止と産研アワード改訂の件
- 5) その他

第4回 2024年7月17日(水)

- 1) 研究員人事の件
- 2) 助手退職の件
- 3) 受託研修の件
- 4) 国際共同研究集会産研共催の件
- 5) その他

臨時 2024年7月18日(木)

- 1) 副所長嘱任の件

- 臨時 2024 年 8 月 2 日(金)
1) 研究員人事の件
- 臨時 2024 年 8 月 22 日(金)
1) 助手退職の件
2) 2025 年 4 月採用助手募集の件
- 第 5 回 2024 年 10 月 9 日(水)
1) 各種委員嘱任の件
2) 研究員人事の件
3) 共同研究の件
4) その他
- 第 6 回 2024 年 11 月 6 日(水)
1) 2025 年 4 月採用助手選考結果および再募集の件
2) 産研アカデミック・フォーラムの件
3) その他
- 第 7 回 2024 年 12 月 4 日(水)
1) 研究員人事の件
- 第 8 回 2025 年 1 月 15 日(水)
1) 2025 年 4 月採用助手新規嘱任の件
2) 研究員人事の件
3) 共同研究の件
4) 2025 年度研究分科会募集・継続の件
5) 2024 年度研究業績評価の件
6) その他
- 第 9 回 2025 年 3 月 12 日(水)
1) 研究員人事の件
2) 助手学外兼職の件
3) 共同研究の件
4) その他

2) 研究活動

(1) 研究分科会の設置および研究会の開催

2024 年度は 14 分科会を設置し、研究会等を随時開催した。

研究会（33 回）

日	講 師	テーマ
4 月 24 日（水） （対面）	三橋 平 氏 早稲田大学商学学術院 教授	A Progress Update (2): An Empirical Study on Rule Breaking Behaviors in a Healthcare Context
5 月 17 日（金） （ハイフレックス）	崔 桓碩 氏 八戸学院大学 准教授	ERM 規制化における保険会計のあり方について 第 1 回 現行会計の再整理
5 月 22 日（水） （対面）	張 森 氏 早稲田大学商学部 助手 趙 夢茹 氏 早稲田大学商学部 助手	A Fault Confessed is Half Redressed: The Impact of Deviant Workplace Behavior on Proactive Behavior
6 月 5 日（水） （対面）	キム テソク 氏 早稲田大学商学学術院 講師	Client Conflict as Barriers to Interfirm Mobilities in Professional Services Industry
6 月 12 日（水） （対面）	Dai Xiayan 氏 早稲田大学大学院商学研究科 博士後期課程	The Power of Connection: Examining the Impact of Interlocking Board Ties on Interfirm Technological Proximity in Patenting
6 月 14 日（金） （ハイフレックス）	下平 勇太 氏 大阪大学社会経済研究所 特任助教	CES 効用による分配選好測定の再検討
6 月 19 日（水） （対面）	Anna Wolf 氏 早稲田大学商学部 JSPS 外国人特別研究員	Overlapping Time and Work Modes Within Multiteam Systems: The Impact on Inter-Team Collaboration Outcomes
6 月 26 日（水） （対面）	WANG, Bishan 氏 早稲田大学大学院商学研究科 博士後期課程	Cracking the Whip in the Workplace: The Influence of Supervisors' Time Urgency on Subordinates' Emotional Exhaustion and Decline in Helping Behavior
7 月 3 日（水） （対面）	エドマン ジェスパール カール ヨーラン 氏 早稲田大学商学学術院 准教授	The role of national organizational identity in the diffusion of global financial products
7 月 5 日（金） （ハイフレックス）	菅野 拓 氏 大阪公立大学大学院文学研究科 准教授	サードセクターは集積するか？ ーイノベーション創出メカニズムの理解からー
7 月 8 日（月） （ハイフレックス）	Shirley-Ann Behraves 氏 Assistant Professor of Global Sustainable Enterprise, Thunderbird School of Global Management in USA	The Influence of Stakeholder Relations on Public Sector Environmental Policies
7 月 10 日（水） （対面）	Charles Stevens 氏 Associate Professor, Rutgers Business School	Feeling the strain: MNEs and corruption in sub-Saharan Africa
7 月 12 日（金） （ハイフレックス）	谷口 豊 氏 早稲田大学商学学術院 非常勤講師	ERM 規制化における保険会計のあり方について 第 2 回 経済価値ベースの規制の考え方と意義
9 月 6 日（金） （対面）	ILIR HAXHI 氏 Associate Professor, University of Amsterdam	AFTER THE COLLAPSE: SPONTANEOUS INSTITUTIONALIZATION AND THE EMERGENCE OF MARKET INSTITUTIONS
9 月 27 日（金） （ハイフレックス）	羽根 佳祐 氏 成城大学経済学部 准教授	ERM 規制化における保険会計のあり方について 第 3 回 規制と会計の差異とそれが及ぼすと考え得る影響

10月4日(金) (ハイフレックス)	脇田 成 氏 東京都立大学経済経営学部 教授	日本経済の故障箇所
10月25日(金) (ハイフレックス)	友原 章典 氏 青山学院大学国際政治経済学部 教授	移民は犯罪を増やすのか?
11月13日(水) (対面)	Xu, Shi Da Jasper 氏 早稲田大学大学院商学研究科 博士後期課程	Building Organizational Resilience – Dynamic balancing of Product and Market exploration and exploitation of EMNEs
11月15日(金) (ハイフレックス)	木口 憲明 氏 一橋大学経済学研究科 博士課程	An Axiomatization of Inequality Averse Preferences with Egalitarian Concerns
11月22日(金) (ハイフレックス)	田中 久稔 氏 早稲田大学政治経済学術院 准教授	Efficiency of the Method of Generalized Moments from the Viewpoint of Information Geometry
11月27日(水) (対面)	梁取 義夫 氏 早稲田大学商学学術院 教授	Perceptions of Others' Motivation and Evaluation of Performance
11月29日(金) (ハイフレックス)	伊神 匠悟 氏 早稲田大学大学院会計研究科 2021年修了	ERM 規制化における保険会計のあり方について 第4回「リスク管理の高度化」に資する会計とは
12月13日(金) (ハイフレックス)	豊川 航 氏 理化学研究所 脳神経科学研究センター・ 計算論的集団力学連携ユニット ユニットリーダー	多本腕バンディット問題を使った社会的学習、集合知、文化進化の研究
1月10日(金) (ハイフレックス)	川上 圭 氏 青山学院大学経済学部 准教授	Generalized Means and Sums: Applications to Comparative Risk and Risk Aversion
1月16日(木) (対面)	草野 哲史 氏 神奈川県立保健福祉大学イノベーション政策研究センター(研究員) 早稲田経済学研究科 博士課程	The effect of a partner's stroke on informal caring and well-being
1月17日(金) (ハイフレックス)	逆井 幹則 氏 ライフネット生命保険株式会社	ERM 規制化における保険会計のあり方について 第5回経済価値ベースの規制を見据えた保険会計のありかた
1月22日(水) (対面)	村瀬 俊朗 氏 早稲田大学商学学術院 准教授	When Flexibility Divides: Office-Visitation Faultlines, Subgroups, and the Impact on Team Outcomes
1月25日(土) (ハイフレックス)	伊藤 正貴 氏 東京海上日動火災保険(株) コマーシャル損害部国際物流 第一グループ ユニットリーダー	貨物保険における“physical damage”及び Insurance Act 2015における Warranty 違反に関する 英国高等法院判決
1月25日(土) (ハイフレックス)	1. Mr. Tom Shinya Tokio Marine and Fire Insurance Co. Ltd. 2. Mr. Richard Sarll Barrister 3. Prof. Satoshi Nakaide Waseda University 4. Prof. Johnny Chang CTBC Business School	AIDA MARINE INSURANCE WORKING PARTY 1. Digitalization and Standardization of Cargo Insurance Data 2. “How to solve a problem like LOF salvage?” Is the LOF Default Clause the answer? 3. Marine insurance as non-mass risk insurance 4. Business interruption caused by Covid –Is it covered in marine insurance?
2月20日(木) (対面)	川澤 良子 氏 (株) Social Policy Lab 代表取締役	公共調達における近年の取り組み

3月13日(木) (対面)	下清水 慎氏 東京理科大学創域理工学部経営システム工学科 助教 川上 圭氏 青山学院大学経済学部経済学科 准教授	Waseda Workshop on Financial Economics Investors' Endogenous Choices of Brokerage Commissions (下清水 慎氏) Generalized Means and Sums: Applications to Comparative Risk and Risk Aversion (川上 圭氏)
3月27日(木) (対面)	David A. Kirsch 氏 Associate Professor, Robert H. Smith School of Business, University of Maryland	Resurfacing uncertainty and knowledge repurposing: How did lithium-ion batteries scale to electric vehicle applications?
3月27日(木) ・28日(金) (対面)	David A. Kirsch 氏 Associate Professor, Robert H. Smith School of Business, University of Maryland	Introduction to Abduction: What is it, and why do we need it? (27日) Using Abduction: A Guide to Sincere and Competent Testimony (28日)

(2) 産研講演会の開催

産研講演会 (52回)

日	講 師	テーマ
4月10日(水) (対面)	サミュエル マルティマー 氏 Intesa Sanpaolo Research Fellow, Saïd Business School, University of Oxford; Research fellow, Kyoto Institute of Philosophy	“Tainted callings: the challenge and justification of being paid well to do good.”
4月17日(水) (対面)	ローラ フリッツェ 氏 Research Fellow Centre for Corporate Reputation, University of Oxford	Voice and Valuation: Analyst Reactions to CEO Speech Patterns during Leadership Changes
4月22日(月) (ハイレックス)	Thanh Nguyen 氏 公益財団法人 日本証券経済研究所 研究調査部 研究員	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar Should investors care about biodiversity risk? The link between biodiversity and firm performance
5月1日(水) (対面)	トニー トング 氏 Professor, Leeds School of Business University of Colorado Boulder	Going Public and Employee Innovation Activity: Evidence from Open Source
5月18日(土) (対面)	岩本 桂一 氏 外務省 領事局長	日中外交の現場～交渉はどのように行われるのか?～
5月20日(月) (対面)	カルロス ベラスコ 氏 Associate Professor of Marketing, BI Norwegian Business School	Digital transformations, customer experiences, and academic publishing
5月20日(月) (ハイレックス)	高橋 秀徳 氏 神戸大学経済経営研究所 准教授	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar 堂島米市場の価格変動分析 —指数先物市場とスポット市場—
5月21日(火) (対面)	西村 洋平 氏 University of Wisconsin-Madison, Wisconsin School of Business, PhD Student	マーケティングにおける深層学習モデルの活用
5月27日(月) (ハイレックス)	内田 交謹 氏 早稲田大学商学大学院 教授	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar Transportation convenience and acquisitions in China: Evidence from network analysis
6月3日(月) (ハイレックス)	浅井 顕太郎 氏 京都大学法学部 教授	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar Ownership Networks and Bid Rigging
6月3日(月) (対面)	根本 宏児 氏 NEO Consulting 合同会社代表CEO	台湾における総合商社—三菱商事の果たす社会的使命

6月10日(月) (オンライン)	酒本 隆太 氏 北海道大学経済学研究院 准教授	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar Conditional Currency Momentum Portfolios
6月17日(月) (ハイフレックス)	Haejun Jeon 氏 東京理科大学経営学部 准教授	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar Time-to-build, regulation, and investment
6月24日(月) (ハイフレックス)	宇治田 達哉 氏 野村アセットマネジメント株式会社 エグゼクティブ・ディレクター／ 早稲田大学商学学術院 博士後期課程	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar 日本企業の ESG 債発行の急増をいかに理解するか： コミットメント vs グリーンウォッシュ
6月26日(水) (対面)	Subin Im 氏 Professor, University of Tennessee at Chattanooga	The Interplay Between Strategic Design and Market Orientations in Achieving New Product Advantage
7月1日(月) (対面)	赤松 美和子 氏 日本大学 文理学部 教授	映画から考える台湾 —ジェンダー・白色テロ・日本表象
7月1日(月) (ハイフレックス)	Jee-Hae Lim 氏 Professor, Shidler College of Business, University of Hawaii at Manoa	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar The Impact of Data Security Breaches on Stock Return Synchronicity
7月8日(月) (ハイフレックス)	郭 楽文 氏 早稲田大学商学学術院 講師	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar Seeing is not believing: Trades and Quotes in the post-NMS era
7月11日(木) (対面)	府川 信幸 氏 Associate Professor of Marketing, Missouri University of Science and Technology	How Robotic Shopping Assistants Should Look and Act
7月19日(金) (対面)	Ting Liu 氏 京都大学経営管理大学院 准教授	Expatriates' Boundary Spanning: Double-Edged Effects in Multinational Enterprises
7月22日(月) (ハイフレックス)	Julian Franks 氏 Professor, Finance, London Business School	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar Managing Ownership by Management
8月10日(土) (対面)	石原 昌和 氏 Associate Professor, Stern School of Business, New York University	マーケティング研究の最新動向
9月5日(木) (対面)	Jeong Ho Kim 氏 Assistant Professor, Finance Department, Florida State University	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar Optimal Communication in Banking Supervision
9月12日(木) (ハイフレックス)	◆鈴木 智博 氏 インクグロウ株式会社 代表取締役社長 ◆久保 克行 氏 早稲田大学商学学術院 教授 ◆木村 秀水 氏 北晃測機株式会社 代表取締役社長 ◆河 勝志 氏 株式会社三和ボディーション ショップ 会長 ◆石垣 圭史 氏 インクグロウ株式会社 取締役副社長 ◆山野井 順一 氏 早稲田大学商学学術院 准教授	①「当共同研究の主旨説明」 ②「中小企業の買収への意欲：決定要因の統計的分析」 ③「M&A 体験に基づく中小 M&A の決定要因と 買収決定から統合の事例報告：定性的分析」
9月19日(木) (対面)	松浦 祐司 氏 ヤクルト(中国)投資有限公司 董事総経理	グローバル化するビジネス—— 商学部卒業より27年間の海外経験から

9月25日(水) (対面)	◆布施 豪嗣 氏 大東文化大学 非常勤講師 ◆和田 みき子 氏 明治学院大学社会学部付属研究所 研究員 ◆原田 泰 氏 名古屋商科大学ビジネススクール 教授 ◆Günther Distelrath 氏 ボン大学 准教授 ◆王 新生 氏 北京大学歴史学部 名誉教授 ◆中野 敏男 氏 東京外国語大学 名誉教授 ◆落合 功 氏 青山学院大学 教授	有沢広巳と石橋湛山の経済政策思想
9月30日(月) (ハイフレックス)	Gregory Jackson 氏 Professor, Management, Free University Berlin	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar Putting Corporate Social Responsibility in Context: a Comparative Perspective on Japan
10月10日(木) (対面)	Sun Young Hwang 氏 Professor, Sookmyung Women's University, Vice Chairperson of IAFICO, Vice President, The Korean Statistical Society	Financial time series volatility for multivariate and high frequency cases
10月18日(金) (対面)	Xiji Zhu 氏 Associate Professor, Graduate School of Business Administration, Hitotsubashi University	The Role of Inclusive Leadership in Reducing Disability Accommodation Request Withholding
10月28日(月) (ハイフレックス)	Walid Saffar 氏 Professor, School of Accounting and Finance, The Hong Kong Polytechnic University	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar Private Firm Disclosures and Public Firms' Debt Choice
10月28日(月) (ハイフレックス)	Mario Wüthrich 氏 Professor, Department of Mathematics, ETH Zürich	The Credibility Transformer
11月5日(火) (ハイフレックス)	Catherine Schenk 氏 オックスフォード大学 教授 Marc Flandreau 氏 ペンシルヴェニア大学 教授	Global Correspondent Banking 1870-2000
11月11日(月) (ハイフレックス)	Lukas Roth 氏 Professor, Alberta School of Business, University of Alberta	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar Family-Controlled Firms and Environmental Sustainability: All Bite and No Bark
11月13日(水) (ハイフレックス)	Kai Li 氏 Professor, UBC Sauder School of Business, University of British Columbia	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar The Value of Social Media Anonymity: Evidence from the Stock Market
11月18日(月) (ハイフレックス)	坂本 淳 氏 大阪学院大学経済学部 准教授	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar Brokerage Commissions in an Uncertain Stock Market
11月18日(月) (対面)	小川 直樹 氏 ㈱ハート・トゥ・ハート・ コミュニケーションズ 代表取締役 英語音声学者・津田塾大学 非常勤講師	歴史からひも解く英米の英語の発音
11月20日(水) (ハイフレックス)	Brian Silverman 氏 Professor of Strategic Management, Rotman School of Management, University of Toronto	The Organizational Structure of Development and Firm Innovation

11月21日(木) (対面)	石 貞美 氏 興南貿易(株) 代表取締役	興南貿易と台湾生まれの創業者たち —祖父、父から私へ
11月25日(月) (ハイフレックス)	Jean de Bettignies 氏 Professor, Department of Management, University of Toronto-Scarborough	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar Nothing but the Truth? Private Information and Reporting on Corporate Social Responsibility
12月2日(月) (対面)	Kwan Seol Son 氏 General Director of Samsung Micro Credit Institute, Ph. D of Economics	Risk Management Strategy of Micro Credit Business for Sustainable Growth
12月9日(月) (ハイフレックス)	木村 遥介 氏 東京科学大学工学院 准教授	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar Corporate network, co-patenting, and technological innovation
12月16日(月) (ハイフレックス)	中村 一輝 氏 早稲田大学商学大学院 助手	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar 株式市場における晴天効果: 確率支配による実証分析
12月17日(火) (対面)	◆Katsuyuki Kubo 氏 Professor, School of Commerce, Waseda University ◆Ming Zhang 氏 Professor, School of Architecture, University of Texas at Austin ◆Junfeng Jiao 氏 Associate Professor, School of Architecture, University of Texas at Austin ◆Jing Kang 氏 Assistant Professor, WIAS, Waseda University ◆Presentation by Yong Fellow/ Student from Waseda University Ziyan Zhou Master student, School of Commerce, Waseda University ◆Presentations by Yong Fellows/ Students from University of Texas at Austin 1.Julius Bergstrom, Lathan Douglas and Tomoya Tanaka 2.Kathy Dang, Emma Maierson, Emma Pardue, Yashna Singhania, Sophie Snapp 3.Cristopher Ferreon, Shawn Hatcher, Sarah Snapp, Mason Yang, Ramiro Zamora-Garcia	Practical Applications and Education of AI Technologies/ 人工知能AI技術の実用化と教育
1月15日(水) (ハイフレックス)	平岩 拓也 氏 PhD candidate, Robert H. Smith School of Business, University of Maryland	The evolution of talent allocation between academia and industry: Strategy for human capital and graduates' choices during Japan's modernization
1月20日(月) (ハイフレックス)	Sunghoon Kim 氏 Associate Professor, The University of Sydney Business School	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar Strategic human resource management in the era of algorithmic technologies: Key Insights and future research agenda
1月24日(金) (ハイフレックス)	張 冠群 氏 中信金融管理学院 教授	Insurers' duties in Selling Insurance under the Financial Consumer Protection Act of 2023 in Taiwan
1月27日(月) (ハイフレックス)	Darya Yuferova 氏 Associate Professor of Finance, Norwegian School of Economics	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar Retail Bubble Rider
2月1日(土) (ハイフレックス)	城倉 洋二 氏 CoreTissue BioEngineering (株) 代表取締役会長	「スタートアップビジネス入門: 起業家講演シリーズ」 CoreTissue BioEngineering 株式会社

2月27日(木) (ハイフレックス)	Eli Amir 氏 Professor, Collier School of Management, Tel Aviv University	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar Are Family Firms Less Audit-risky? Analyzing Audit Fees and Hours
3月3日(月) (ハイフレックス)	Anh Vu 氏 Senior Lecturer, University of Sussex Business School, University of Sussex	Waseda Organizational and Financial Economics Seminar Artificial Intelligence, Sustainability, and Money Market Stress: New Perspectives on Bank Deposit Flight
3月14日(金) (ハイフレックス)	◆原田 三寛 氏 株式会社東京商工リサーチ 情報部 部長 ◆柳岡 優希 氏 株式会社東京商工リサーチ 経営企画室 リーダー ◆宮川 大介 氏 早稲田大学商学大学院 教授 ◆久保 克行 氏 早稲田大学商学大学院 教授	東京商工リサーチ・早稲田大学 共同研究報告会 通念をデータで検証する:TSRデータを利用した実証分析 ◆「11年ぶりの年間倒産1万件:倒産の「質」は様 変わりしたのか?」原田三寛 氏 ◆「民事再生法における倒産コストの決定要因:どう すれば速やかに法的整理に移行できるか?」柳岡優希 氏 ◆「企業によるコロナ支援策利用のメカニズム:なぜ 制度を利用しないのか?」宮川大介 氏 ◆「中小M&Aと雇用条件の変化:買収されて従業員は 幸せになるのか?」久保克行 氏
3月19日(水) (ハイフレックス)	Abhinav Gupta 氏 Michael G. Foster Endowed Professor, Dept of Management & Organization, Foster School of Business, University of Washington, Seattle	Privilege and Prejudice: Shareholder Primacy and the Relevance of Social Class Backgrounds for CEO Contenders' Selection Prospects

(3) 第29回 産研アカデミック・フォーラムの開催

「経営学研究の軌跡と展望」

日時・場所	プログラム	講演者・テーマ
2025年 3月15日(土) 3号館602教室 ※コーディネータ・司会 山野井 順一 氏 (早稲田大学 商学大学院 准教授)	司会挨拶	山野井 順一 氏 (早稲田大学商学大学院准教授)
	開会の辞	矢後 和彦 氏 (早稲田大学産業経営研究所長)
	講演	三橋 平 氏 (早稲田大学商学大学院教授) 「組織論研究の軌跡と展望」
		山野井 順一 氏 (早稲田大学商学大学院准教授) 「戦略論研究における経営者への焦点の変遷」
		牧野 成史 氏 (京都大学経済学研究科教授) 「グローバリゼーションの行方」
	総括と パネルディスカッション	司会:坂野 友昭 氏 (早稲田大学商学大学院教授) パネリスト:各講演者
	閉会の辞	坂野 友昭 氏 (早稲田大学商学大学院教授)

(4) 産研ランチタイムセミナーの開催

産業経営研究所の研究者間における対面による交流の場の提供、および研究領域を横断した情報交換を目的として、2023年2月より月1回程度開催。対象は産研所属研究員、商学大学院の助手、博士課程の学生とし、研究の潮流、外国における研究の状況、在外研究における知見、出版した図書の紹介等をテーマとしている。2024年度は5回開催した。

日	講 師	テーマ
5月8日(水) (対面)	清水 洋 氏 早稲田大学商学大学院 教授	流動性とイノベーション

10月23日(水) (対面)	篠原 靖明 氏 早稲田大学商学大学院 准教授	音声学者として商学部に勤めて
11月20日(水) (対面)	若林 利明 氏 早稲田大学商学大学院 准教授	A theory of firm ESG engagements for future financial risks
12月18日(水) (対面)	星野 明雄 氏 早稲田大学商学大学院 准教授	非マスリスクに対する保険数理上の課題 ー大数の法則が適合しないリスクに対する保険料の考察ー
1月29日(水) (対面)	山口 祥司 氏 早稲田大学商学大学院 准教授	ポアンカレ予想の紹介 ートポロジー研究者の研究紹介にかえてー

(5) 産学研究力増進セミナーの開催

商学研究科関連領域の博士後期課程学生・アーリーキャリア研究者を対象としたセミナーを2回開催した。第1回目は、科研費等の申請への取り組み方、申請書の書き方など、第2回目は、学術論文の書き方やトップジャーナルの掲載プロセスなど、様々なアドバイスを実施した。

日	講 師	テーマ
7月3日(水)	村瀬 俊朗 氏 早稲田大学商学大学院 准教授	科学研究費申請アドバイスセミナー
7月17日(水)	バルク ヤフーダ 氏 早稲田大学商学部 訪問教授 サザンプトン大学ビジネススク ール教授	Writing for publishing in top refereed academic journals in management-related fields: Editorial view

(6) 受託共同研究

機関名：株式会社東京商工リサーチ(TSR)

研究者：山野井 順一 准教授

「非上場企業における企業組織の再編ならびに合併・買収の決定要因とパフォーマンスへのインプリケーション」

期 間：2021年9月1日～2025年3月31日

機関名：オープンワーク株式会社

研究者：梁取 美夫 教授

「社員クチコミ情報と企業の財務情報との関係に関する研究」

期 間：2022年10月1日～2025年10月1日

機関名：株式会社東京商工リサーチ(TSR)

研究者：宮川 大介 教授

「事業承継と資源配分」

期 間：2023年5月29日～2025年5月31日

機関名：株式会社東京商工リサーチ(TSR)

研究者：宮川 大介 教授

「規制指標の変化と企業ダイナミクス」

期 間：2023年5月29日～2025年5月31日

機関名：株式会社東京商工リサーチ(TSR)
研究者：宮川 大介 教授
「自然災害及び大規模な外生ショックが企業行動に与える影響」
期 間：2023 年 5 月 29 日～2025 年 5 月 31 日

機関名：株式会社東京商工リサーチ(TSR)
研究者：宮川 大介 教授
「税制変更の効果に関する実証分析」
期 間：2023 年 5 月 29 日～2025 年 5 月 31 日

機関名：東海国立大学機構名古屋大学大学院国際開発研究科
研究者：新井 剛 教授
「重層的アクターの協調を生み出す気候変動ガバナンスの構築—低炭素水素事業に着目して」
期 間：2023 年 7 月 1 日～2029 年 3 月 31 日
※JSPS 学術地共創プログラム採択に伴う再委託

機関名：デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
研究者：宮島 英昭 教授
「コーポレートガバナンス/人的資本に関する研究」
期 間：2023 年 7 月 1 日～2025 年 6 月 30 日

機関名：株式会社東京商工リサーチ(TSR)
研究者：山野井 順一 准教授
「経営者の性別と金融機関の貸出行動の関係性」
期 間：2023 年 7 月 24 日～2025 年 3 月 31 日

機関名：株式会社オープンアップグループ
研究者：三橋 平 教授
「資格取得推進プロジェクトの効果検証」
期 間：2023 年 9 月 1 日～2026 年 7 月 31 日

機関名：株式会社みずほ銀行
研究者：宮川 大介 教授
「銀行データを活用した企業間取引に関する分析業務」
期 間：2023 年 9 月 11 日～2025 年 3 月 31 日

機関名：インクグロウ株式会社
研究者：山野井 順一 准教授
「中小企業（未上場会社）における第三者承継（M&A）に関する総合的な研究企業」
期 間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

機関名：株式会社シキナミ
研究者：松井 希望 産業経営研究所助手
「採用・人材配属の最適化による離職率低減の研究：パーソナリティと価値観の観点から」
期 間：2024 年 10 月 1 日～2025 年 9 月 30 日

機関名：三菱電機株式会社

研究者：星野 明雄 准教授

「昇降機保守事業の新保守料金プラン設計技術の開発」

期 間：2025 年 1 月 21 日～2026 年 3 月 31 日

(7) 研究成果の刊行

1) 『産業経営』

第 55 号の発行準備を進めた。

2) 『第 29 回産研アカデミック・フォーラム』報告書

産研アカデミック・フォーラムの内容をおさめ、報告書として作成を進めた。

3) 『産研シリーズ』

第 50 号の発行準備を進めた。

4) 『ワーキングペーパー』

2024-001 号を発行した。

(8) 産業経営研究所アーリーキャリア研究支援制度

2020 年度より実施している産業経営研究所アーリーキャリア研究支援制度（以下「本制度」という）は若手研究員の国内外での研究活動を支援することを目的とした助成制度である。本制度により、国内外での研究を目的とした活動（学会、国際会議、国際コンソーシアム参加、シンポジウムでの参加・発表）に伴う旅費・交通費・参加費、研究に関連する書籍（電子ジャーナルを含む）購入費を支援する。

2024 年度は申請者数 18 名と 2023 年度の 24 名に比べ減少したが、2025 年度からは優れた研究業績を挙げたアーリーキャリア研究者に対する新たな表彰制度を作り、これと本制度をリンクさせることにより助成金額の増額をすることとした。この認知度を高め、アーリーキャリア研究者へのインセンティブを向上させ、利用実績の増加につなげたい。

引き続き、広報活動を徹底することにより、アーリーキャリア研究者の研究活動を促進する。さらなる周知を図り、研究活動を促進する予定である。

3) 教育活動

(1) 受託研修

以下の研修事業を受託・実施した。

1) Shenzhen Eraark International Merchandising WASEDA Visit Program 2024 Presented by Shanghai First

コーディネータ・講師：須永 努 教授

2) Bryant University WASEDA Visit Program 2024

コーディネータ：中出 哲 教授

講師：星野 昭雄 准教授

(2) ビジネスプラン・コンテスト

前年度に引き続き 2024 年度も、従来の一般募集に加え、商学部設置科目の株式会社日本 M&A 寄附講座「起業家養成講座Ⅰ」と連携し、同科目履修者からもビジネスプランを募集した。応募者数は 257 人（一般 73 件、履修者 184 件）。審査員は、起業家養成講座Ⅰ

履修者からの応募と一般応募のすべてのビジネスプランに目を通し、厳正な審査・選考を行い、ファイナリスト計6組のビジネスプランを選出し、2024年7月19日にプレゼンテーションを井深大記念ホールにて開催した。

4) 図書・資料の収集

外国雑誌の継続購入を優先し、統計書、社史、団体史、各種CD-ROM等を収集した。

2024年度 産業経営研究所 図書・資料収集状況

内 訳		購入	寄贈	合計
図 書 [冊]	統計書	105	12	117
	社 史	0	2	2
	その他	45	3	48
	[合 計]	150	17	167
雑 誌・和 [種類数]		0	0	0
雑 誌・洋 [種類数]		19	0	19
CD-ROM/DVD [種類数]		5	1	6
E-BOOK・和 [タイトル数]		0	0	0
E-BOOK・洋 [タイトル数]		7	0	7
DB [種類数]		5	0	5

5) 主要業務

下記業務を分担した。

【所長】研究所総括、管理、運営

2024年4月1日～2024年9月20日 中出 哲

2024年9月21日～2025年3月31日 矢後 和彦

【副所長】研究所運営のための企画、立案、研究成果の刊行、図書・資料整備

2024年4月1日～2024年9月20日 三橋 平

2024年9月21日～2025年3月31日 片山 東

【産業経営編集委員長】『産業経営』の編集統括

2024年4月1日～2024年9月20日 矢後 和彦

2024年9月21日～2025年3月31日 須永 努

【事務長】研究所事務責任者

2024年4月1日～2025年3月31日 大庭 慎二

【担当課長】

2024年4月1日～2025年3月31日 三好 裕明

以上

3. 役職者・運営委員・助手

2024. 4. 1～2024. 9. 20

所 長	中出 哲
副 所 長	三橋 平

運営委員

秋葉 賢一	鈴木 孝則	藤田 誠	山口 祥司
小川 利康	高瀬 浩一	三橋 平	山野井順一
奥村 雅史	中出 哲	村瀬 俊朗	横田 一彦
片岡 孝夫	中村 信男	目時 壮浩	横山 将義
久保 克行	長谷川惠一	森田 彰	
嶋村 和恵	花井 俊介	八重倉 孝	
清水 孝	広田 真一	矢後 和彦	

助手

高坂 啓介	(任期 2019. 9. 1～2024. 8. 31)
芳賀 悠基	(任期 2023. 9. 1～2025. 3. 31)
松井 希望	(任期 2023. 9. 1～2026. 8. 31)
近藤 祐大	(任期 2024. 9. 1～2027. 8. 31)

2024. 9. 21～2025. 3. 31

所 長	矢後 和彦
副 所 長	片山 東

運営委員

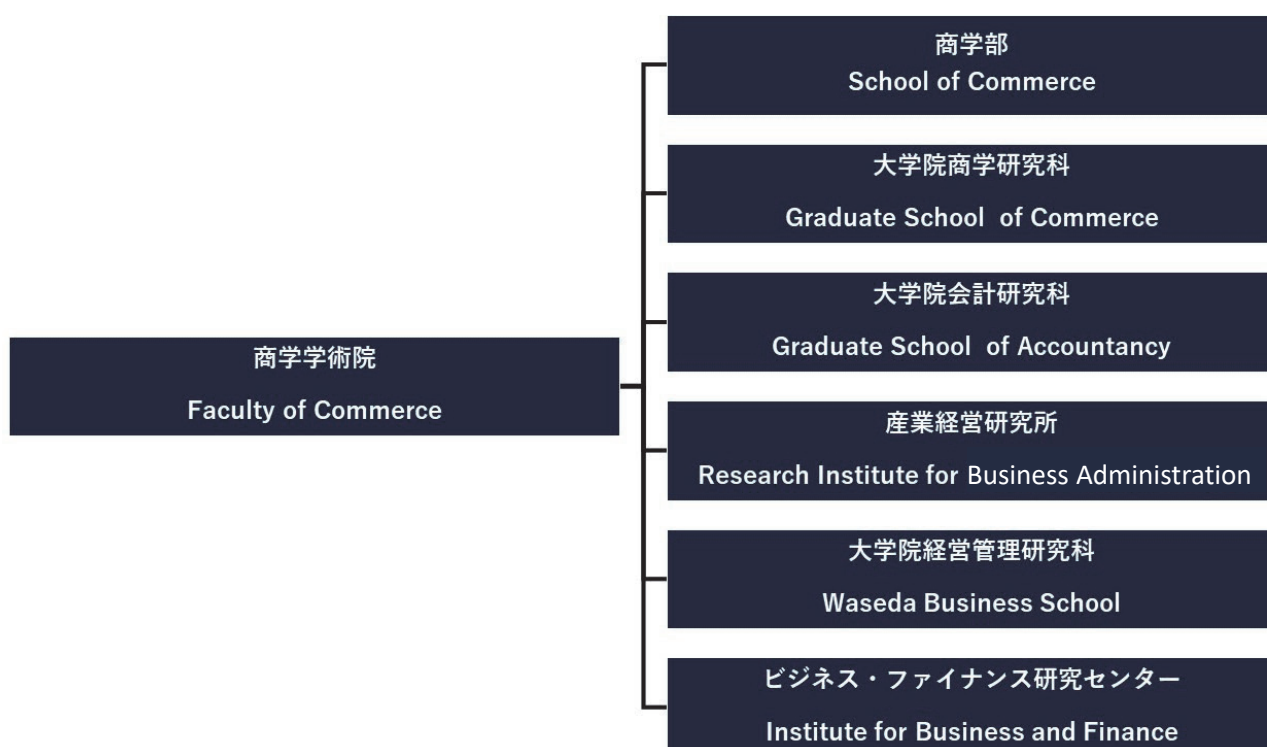
大鹿 智基	清水 孝	長谷川惠一	矢後 和彦
尾崎 祐介	清水 洋	花井 俊介	梁取 美夫
小川 利康	鈴木 孝則	広田 真一	山口 祥司
片山 東	須永 努	宮川 大介	山野井順一
金子 良太	高瀬 浩一	村瀬 俊朗	横田 一彦
久保 克行	中出 哲	目時 壮浩	横山 将義
嶋村 和恵	中村 信男	森田 彰	

助手

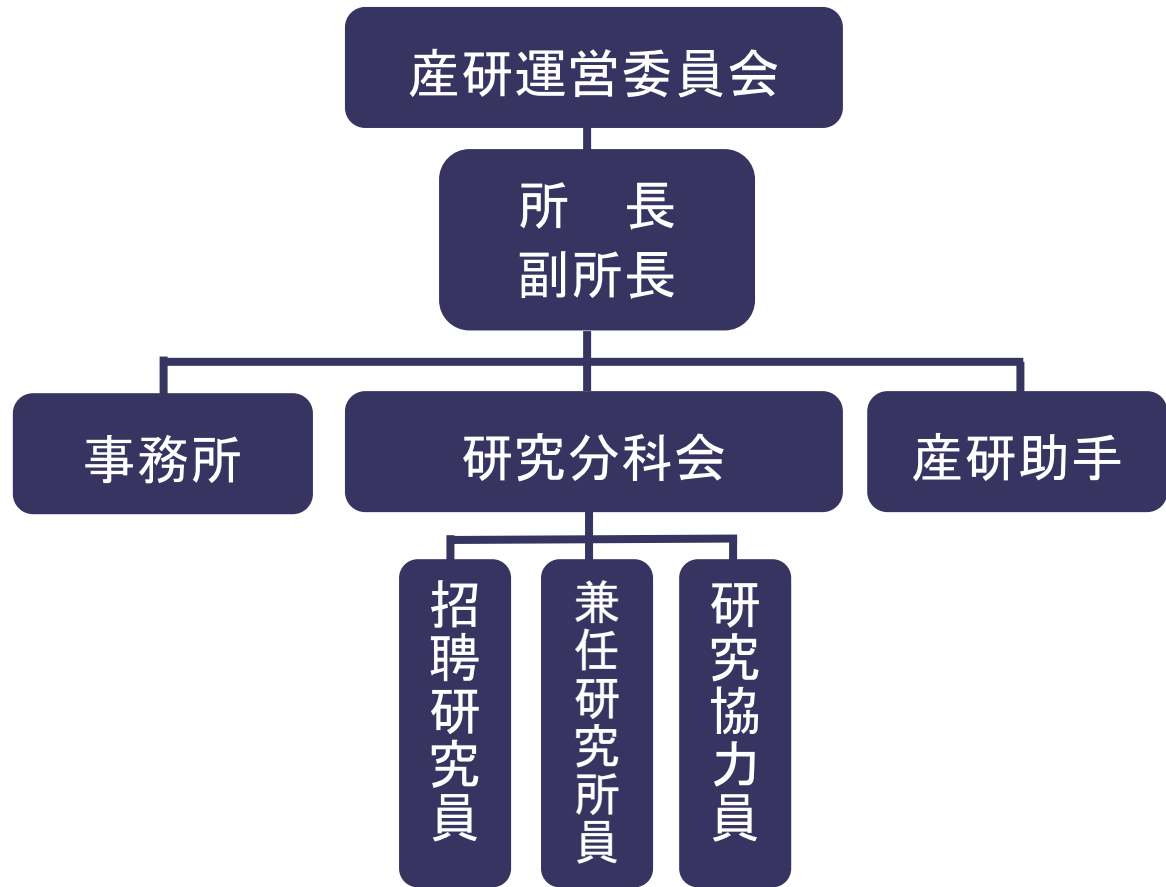
芳賀 悠基	(任期 2023. 9. 1～2025. 3. 31)
松井 希望	(任期 2023. 9. 1～2026. 8. 31)
近藤 祐大	(任期 2024. 9. 1～2027. 8. 31)

4. 商学学術院・産業経営研究所構成図

商学学術院構成図



産業経営研究所構成図



運営委員会	商学学院を本属とする専任教員のうち商学部主担当および会計研究科主担当ならびに、商学研究科商学専攻主担当の兼任研究所員のうち役職者、研究分科会主任者、互選委員によって構成される研究所の意思決定機関。
兼任研究所員	本大学の商学部、会計研究科、商学研究科商学専攻の専任教員、特任教授、任期付き教員および研究分科会参加者である他学院の専任教員。
招聘研究員	事業計画の実施上必要と認められるときに、研究分科会の代表者の推薦に基づき、研究・調査に協力する者。
研究協力員	大学院修士課程修了者またはこれと同等以上の者で、研究分科会・リサーチ・プロジェクトの代表者の推薦に基づき、研究・調査に協力する者。

5. 『産業経営』 投稿規程・執筆要領

『産業経営』 投稿規程

2015年3月4日改訂

1. 【投稿原稿の内容】

- (1) 投稿原稿は、産業経営に関する問題をテーマとした研究とする。
- (2) 投稿原稿は、未公開であり、かつ、他誌で査読中のものであってはならない。
- (3) 投稿原稿に使用する言語は、日本語または英語とする。

2. 【投稿原稿の種類】

- (1) 投稿原稿は、研究論文または研究ノートとする。
- (2) 投稿時に論文として申請したものであっても、編集委員会が委嘱した審査員の審査に基づき、研究ノートとすることを掲載条件とする場合がある。

3. 【投稿料】

投稿料は、無料とする。

4. 【原稿の投稿】

- (1) 投稿者は、投稿締切日までに、原則として、所定のファイル形式によって保存した原稿を指定されたメールアドレスに送付するものとする。
- (2) 投稿の締切日は、原則として、1月末日および7月20日とし、年2回審査を実施する。

5. 【掲載決定論文の原稿データの送付】

- (1) 編集委員会が委嘱した審査員の審査に基づき、投稿原稿の掲載が決定した場合、編集委員会より、投稿者にその旨を通知する。
- (2) 上記(1)の通知を受けた者は、審査員または編集委員会が指摘した事項を加筆・修正のうえ、所定の期日までに、原則として、所定のファイル形式によって保存した原稿を指定されたメールアドレスに送付するものとする。

6. 【掲載決定論文の校正】

- (1) 掲載決定論文の執筆者校正は、原則として、初校のみとする。
- (2) 1月末日締切の論文および7月20日締切の論文の校正は、各々原則として6月および12月までに完了予定とする。

7. 【刊行】

- (1) 「産業経営」は毎年1回6月に刊行し、原則として前年7月20日締切分および当年1月末日締切分のうちの掲載決定論文を掲載する。
- (2) 掲載決定論文は、校正が完了し次第、早稲田大学産業経営研究所のウェブサイトにおいて「産業経営」の掲載予定号を明記して公開する。

8. 【抜刷等の送付】

- (1) 当研究所および編集委員会は、投稿者に原稿料を支払わないが、『産業経営』刊行後、冊子本体5部および抜刷30部を無料で送付する。
- (2) 掲載原稿および抜刷には、投稿受付日および採択決定日を記載する。

9. 【著作権】

- (1) 掲載論文の著作権は、当研究所に帰属するものとする。
- (2) 『産業経営』刊行後、著者は掲載論文を複製・転載の形で利用することができる。ただし、その場合、著者はその旨を当研究所所長宛に書面で通知し、複製・転載先には初出を明記しなければならない。

10. 【その他】

投稿締切日、投稿規程、執筆要領等を改訂した場合は、これらを早稲田大学産業経営研究所のウェブサイト上にて公開するものとし、原則として、投稿者に個別に通知は行わない。

【投稿先および問い合わせ先】

早稲田大学産業経営研究所『産業経営』編集委員会
〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1
TEL : 03-3203-9857
FAX : 03-3202-4274
E-mail : businessreview@list.waseda.jp
URL : [http:// www.waseda. jp/fcom/riba/](http://www.waseda.jp/fcom/riba/)

『産業経営』執筆要領

2015年3月4日改正

1. 【使用言語】

- (1) 使用言語は、日本語または英語とする。
- (2) 投稿者の母語以外の言語を使用する場合は、投稿前にネイティヴチェックを受けるものとする（下記3. 【投稿者等に関する記載】(2)の要旨を含む）。

2. 【書式】

- (1) 原稿は、原則として、Microsoft Wordにより作成するものとする（手書原稿は受理しない）。
- (2) 原稿は、A4版用紙に横書きで作成するものとする。
- (3) 原稿は、1ページあたり43字×32行（刷り上がりの本文の字数および行数）で作成することが望ましい。
- (4) 原稿の本文、注、参考文献のフォントは10.5ポイント以上とする（査読のため）。
- (5) 現行の図表のレイアウトは、原則として、下表の通りとする。

区分	フォント	サイズ	配置等
図表見出し	ゴシック体(太字)	8ポイント	中央揃え（図表の上につける）
図表内の文字・データ	明朝体	8ポイント	執筆者指定
図表単位等	明朝体	7ポイント	執筆者指定
図表下注・出所	明朝体	7ポイント	右寄せ

※節・項の区切りおよび図表の前後には1行ずつスペースを入れること。

※ただし、図表の書式は、誌面構成を考慮して、編集委員会が変更する場合がある。

- (6) 原稿は、原則として、下記3. 【投稿者等に関する記載】を除き、論文の場合は54,000字以内、研究ノートの場合は14,000字以内に本文、図表、注および参考文献を収めるものとする。なお、図表については、（図表に要する行数）×43字を当該図表の文字数とみなす。

3. 【投稿者等に関する記載】

- (1) 投稿原稿には、次の内容を記載した表紙をつけるものとする。
 - (a) 主題（タイトル）および副題（サブタイトル）
 - (b) 論文または研究ノートの別
 - (c) 著者全員の氏名および所属
 - (d) 投稿者（著者が単数の場合は当該著者。著者が複数の場合は代表者として申請された者。以下同じ）の氏名、連絡先（郵便番号、住所、電話番号、メールアドレス）
- (2) 表紙の次のページには、次の内容を記載するものとする。
 - (a) 主題（タイトル）および副題（サブタイトル）（日本語）
 - (b) 著者全員の氏名（日本語）
 - (c) 要旨（日本語。800字以内）
 - (d) キーワード（日本語。5-10個）
 - (e) 主題（タイトル）および副題（サブタイトル）（英語）
 - (f) 著者全員の氏名（英語）
 - (g) 要旨（英語。250語以内）
 - (h) キーワード（英語。5-10個）

4. 【節・項のナンバリング】

節・項のナンバリングは、次の要領で行うものとする（ローマ数字の使用および数字のない節・項を設けてはならない）。

1.	****
2.	****
2.1.	****
2.1.1.	****
2.1.2.	****
2.2.	****
3.	****

5. 【日本語論文の文章表記】

- (1) 日本語論文では、原則として、新仮名遣い、新字体を使用するものとする。
- (2) 日本語論文では、原則として、当用漢字を中心とし、難しい漢字の使用は避けるものとする。
- (3) 日本語論文では、句点（。）および読点（、）を併用するものとし、原則として、ピリオド（.）およびカンマ（,）は使用しない。
- (4) 日本語論文では、傍点は該当する文字の上に打つものとする。

6. 【日本語論文の数字の表記】

- (1) 日本語論文では、原則として、算用数字を使用するものとし、漢数字の使用は熟語、成句および固有名詞の場合にのみ認める。
- (2) 上記(1)にかかわらず、概数を表記する場合は、漢数字を使用するものとする（例：数十日、何千人）。
- (3) 上記(1)にかかわらず、桁数が大きくなる場合には、必要に応じて単位語（例：兆、億、万）を用いることも認めるが、この場合は、位取りのカンマを使用しない（例：「7万6000人」または「76,000人」は可。「7万6,000人」は不可）。

7. 【数式等の表記】

- (1) 変数は、イタリック（斜体）で表示するものとする（例： x 、 y 、 z ）。
- (2) ベクトルは、ゴシック体かつ太字で表示するものとする（例：**A**、**B**、**C**）。

8. 【図表】

- (1) 図表を挿入する場合、図表の上に図表番号およびタイトルを付けるものとする。なお、図表番号は、投稿論文全体の通し番号とし、節ごとに振り直してはならない（例：「図表10」は可。「図表1.3」は不可）。
- (2) 図表は、原稿の適切な箇所に配置しておくことが望ましい。また、図表を本文と別のページに一括して作成する場合には、刷り上がりを考慮して挿入箇所を明記しなければならない。
- (3) 他の文献の図表を参照する場合は、図表の下に出所を明記するものとする。なお、出所の記載方法は、原則として、下記9.【注・参考文献】に準拠するものとする。また、この場合、当該図表についての著作権に関する問題は、著者の責任において、原稿の投稿前に処理しておくものとする。

9. 【注・参考文献】

- (1) 本文中で引用箇所を表示する必要がある場合、引用文献の著者名、発表年および引用ページ（省略可）を記載するものとする（例：大隈（1992：74））。
- (2) 引用箇所は、本文中で表示するものとする。
 - (a) 引用箇所は、両括弧によって表示するものとする。
 - (b) 括弧内には、引用文献の著者名（名字のみ）、発行年（西暦）および引用ページ（省略可）を次の要領で記載するものとする。

例： ① 引用文献が単数の場合	(大隈_1994：36)
② 引用文献が複数の場合	(大隈_1997：52；高田_1999：13)

※下線（_）は半角スペース

- (c) 同一著者が同一年に複数の文献を公表している場合は、発行年の後にa、b、…のアルファベットの付して、本文中および文末の参考文献において区別するものとする。

例：＜本文中＞	(大隈_1998b：20)
＜文末：参考文献＞	大隈重信（1998a）「****」……
	大隈重信（1998b）「※※※」……

- (3) 内容注は、本文末にまとめて表示するものとする。
 - (a) 内容注の番号は、該当箇所の右肩に両括弧によって表示するものとする（例：…である⁽¹⁾）。
 - (b) 内容注のなかに引用箇所を表示する必要がある場合には、上記(1)に準拠して表示するものとする。
- (4) 参考文献は、内容注の次に、著者氏名のアルファベット順に表示するものとする。
 - (a) 参考文献が単行本の場合、原則として、参考文献の著者名（個人の場合はフルネーム、団体の場合は省略名称不可）、発行年（西暦。両括弧で囲う）、書名（副題を含む。和書、韓国語文献または中国語文献の場合は二重カギ括弧で囲い、欧文文献の場合はイタリック（斜体）とする）、版数（必要な場合）、発行地（東京の場合は省略可）および発行所を次の要領で記載するものとする。

例：① 参考文献が和文献、韓国語文献または中国語文献の場合
武井寿（1997）.『解釈的マーケティング研究』第3版_東京：白桃書房.
② 参考文献が欧文文献の場合
Sunder, S. (1997). <i>Theory of Accounting and Control</i> . South-Western College Publishing.
③ 参考文献が欧文文献で、日本語訳が存在する場合
Littleton, A. C. (1933). <i>Accounting Evolution To 1900</i> . New York: American Institute Publishing Press. (片野一郎訳（1978）『リトルトン会計発達史（増補版）』東京：同文館出版）.

※なお、原著出版年の後には原則として「.」（ピリオド）を打つものとするが、これに代えて「,」を用いてもかまわない。

- (b) 参考文献が論文の場合、原則として、参考文献の著者名（個人の場合はフルネーム、団体の場合は省略名称不可）、発行年（西暦。両括弧で囲う）、論文名（副題を含む。和書、韓国語文献または中国語文献の場合はカギ括弧で囲う）、収録書物の著者名もしくは編者名および収録書物名（和書または中国語文献の場合は二重カギ括弧で囲い、欧文文献の場合はイタリック（斜体）とする）、または、収録学術雑誌名、巻号数ならびに該当論文の開始ページおよび終了ページを次の要領で記載するものとする。

- 例：① 参考文献が和文献、韓国語文献または中国語文献で、所収論文の場合
奥村雅史（2001）．「クロスボーダーM&Aと国際化戦略」薄井彰編著『パ
リユー経営のM&A投資』東京：中央経済社：113-134.
- ② 参考文献が和文献、韓国語文献または中国語文献で、雑誌論文の場合
辻山栄子（2003）．「業績報告をめぐる国際的動向と会計研究の課題」『会
計』163(2)：223-240.
- ③ 参考文献が欧文文献で、所収論文の場合
Ikeo, A. (2000). Economists and Economic Policies. in Ikeo, A. ed.
Japanese Economics and Economists since 1945. London : Routledge :
143-184.
- ④ 参考文献が欧文文献で、雑誌論文の場合
Sasaki, H. and Toda, M. (1996). Two-Sided Matching Problems with
Externalities. *Journal of Economic Theory*. 70(1) : 93-108.

- (c) 参考文献が新聞または一般雑誌の記事である場合は、次のように表示するものとする。
- ① 署名記事の場合：学術文献と同様に表示するものとする。
 - ② 無署名、匿名記事の場合：本文中に新聞または一般雑誌のタイトル、発行日付および号数（必要な場合）を可能な限り表示するものとする。
- (d) 上記(c)にかかわらず、新聞または一般雑誌の記事を引用した場合は、学術文献のリストの後に、新聞または一般雑誌のタイトル、発行日付および号数（必要な場合）を表示するものとする。
- (e) 参考文献がインターネット上の記事である場合には、学術文献と同様に、管理機関名、記事のタイトル（必要な場合）を表示し、また当該ファイルが存在するページのURLを括弧書きで表示するものとする（例：法務省法制審議会会社法（現代化）部会. 2005. 『第32回会議議事録』（<http://www.moj.go.jp/SHINGI/041208-1.html>））。また、学術文献および新聞または一般雑誌のリストの後に、管理機関名のホームページのURLを表示するものとする（例：法務省ウェブサイト（<http://www.moj.go.jp/>））。

以上

早稲田大学商学学術院・坂野友昭教授退職記念

第29回 産研アカデミック・フォーラム



経営学研究の 軌跡と展望

日時：2025年3月15日（土）14:00 ～ 17:00

会場：早稲田大学3号館602教室

主催：早稲田大学産業経営研究所

コーディネータ・司会：山野井 順一（早稲田大学商学学術院 准教授）

プログラム

- 司会挨拶 山野井 順一（早稲田大学商学学術院 准教授）
- 開会の辞 矢後 和彦（産業経営研究所 所長／早稲田大学商学学術院 教授）
- 講演（各40分）
 1. 「組織論研究の軌跡と展望」
三橋 平（早稲田大学商学学術院 教授）
 2. 「戦略論研究における経営者への焦点の変遷」
山野井 順一（早稲田大学商学学術院 准教授）
 3. 「グローバリゼーションの行方」
牧野 成史（京都大学経済学研究科 教授）
- 総括とパネルディスカッション（30分）
司会：坂野 友昭（早稲田大学商学学術院 教授）
- 閉会の辞 坂野 友昭（早稲田大学商学学術院 教授）

定員：200人（定員に達し次第締め切り）

聴講を希望の方は、早稲田大学産業経営研究所Webサイト <https://www.waseda.jp/fcom/riba/>
またはQRコードから申請フォームにご入力ください。

申込締切：2025年3月6日（木）17:00まで

対象：学生・教職員・一般。どなたでも聴講頂けます。聴講無料。

早稲田大学産業経営研究所

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田キャンパス11号館3階

TEL: 03-3203-9857 E-mail: riba@list.waseda.jp



早稲田大学 産業経営研究所 所報 No.64

2025 年 6 月 30 日発行

発行者 早稲田大学 産業経営研究所所長 矢後 和彦

発行所 早稲田大学 産業経営研究所

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1

電話(03)3203-9857

FAX(03)3202-4247

E-mail riba@list.waseda.jp

URL <https://www.waseda.jp/fcom/riba/>